



政府主催の地域フォーラムで発言

政府主催の地域フォーラムが荒川地区の総合社会教育センターで開かれ、「沖館川をきれいにする会」では加川副会長が発言、趣旨は次の通り。

私は、青森市街地を流れる2級河川、沖館川をきれいにする会の副会長をしている加川と申します。ひとこと陸奥湾の環境ほぜんについて申し述べます。

きれいにする会は、沖館小学校4年生の児童たちが、沖館川の汚れを学習の中で知り、町会の大人達に作文を出したのがキッカケでした。町会は早速流域の他町会や、小・中学校のPTAなどに呼びかけてこの会をつくりました。そして沖館川の川岸に数百名の大人や子供達と一緒に、除草やゴミ拾いEM菌の撒布などを県や市の行政と一体になってここ数年取組んできています。

青森市の背後の山は、雪中行軍で有名な八甲田山の山並みです。後存知のように、青森市は日本有数の豪雪地帯ですが、ブナの木々などによって蓄えられた水は、市民の台所をうるおし、日本一美味しい水道と折紙つきの評価をうけています。この生活用水の注ぐ陸奥湾は帆立、ウニ、ホヤ、ナマコ、メカブ、ガサエビ(学名:沓)、アブラメなど北海道に匹敵する魚介類の宝庫でもあります。

問題は市民の生活用水が沖館川に流入し、陸奥湾を汚していることであります。私共の会の目的は、沖館川をきれいにするることによって、青森市の宝庫である陸奥湾を守ることにあります。そのためには公共下水道の整備促進と、地域住民の生活用水を下水道に接続することが急務であります。私共は行政の下請けではありません。行政と協力する立場で併行して、地域住民に協力を要請しておりますが、経済的な事情もこれあり、円滑に進んではいません。

最近の日本経済はゆるやかな回復の方向にあると言われますが、中央からの余波は青森にはそう簡単に届きません。失業者は増え、政府の三位一体の行政改革は、地方の公共事業の削減につながるなどの新聞報道にヤキモキしているのが現状であります。

大臣、政府は厳しい財政環境や行政改革の最中にあると思いますが、地域再生の原点である公共下水道の整備促進が何ものにも勝る特効薬であると信じます。そして限りない資源を持っている陸奥湾の価値を見直し、これを維持することが地域再生の原点であることを強調し、私の意見と致します。

平成19年度の定時総会終わる！

9月3日(月)沖館市民センターで、今までにない多数(35名)の出席者のもとで、各町会から負担納入のもとで開催された。

石戸谷会長は、沖館川をきれいにする会も発足してから六年を迎えることになった。会長と事務局長の努力の甲斐あって、無理とされていた助成金が、ようやく「独立行政法人福祉医療機構、子育て支援基金」から1,104,980円に決まったこと。

石戸谷会長式典参加の思いを語る

東京都で開かれた「第一回みどりの式典」に参加し、天皇・皇后両陛下ご出席のもと「緑化推進運動功労者として、内閣総理大臣表彰の栄に輝き、別室懇親会の席上、両陛下から親しくご下問され、恐縮しながらお答えしたことの経緯について、欣喜雀躍の心を抑えながらの微笑ましい挨拶があった。

総会での中心は、助成金について関心が集中された感じでしたが、助成金を要請する書類づくりの団塊から行事、講習会、講師派遣謝礼金、旅費、印刷費、通信費、備品費、消耗費等すべての支出について規定されていること。沖館川・西滝川・万太郎堰に接する町会に、土手の除草を主体にした草刈機(6万円相当)十二台を購入(すでに各町会から申込あり)配置することになった。期限は三年以降は自由。総会に出席された町会には、若干の軍手・ゴミ袋を当日配布した。参加出来なかった町会には後日配布した。



平成19年度定時総会スナップ

